



## 肥満と病気

「肥満は万病の元」といわれ、特に犬の肥満は尿路結石にもなりやすいです。他にも、気を付けるべき病気として糖尿病と膵炎があり、命の危険や生涯治療が必要になるリスクがあります。

また人間と同じ様に、足や腰、関節に負担がかかって、関節炎に罹りやすくなります。最悪の場合、寝たきりになることもあります。

そうならないためにも、肥満の予防はとても大切なのです。



## ダイエット計画！

ワンちゃん、猫ちゃんのダイエットは、単に体重を減らそうとして、とにかく食事量を減らす方法だけを行うと栄養不足になり危険です。

バランスの良い栄養を摂取した上で量を調整していく必要がありますが、専門知識が必要になります。

動物病院であれば、その子に合った体重管理のアドバイスをできますので、肥満で病気になる前に、ちょっとしたダイエットとして動物病院を活用しましょう。

太りすぎ、痩せすぎの目安は、ボディコンディションスコアというチェック方法がありますので、参考にしてみてください。

### ■ボディコンディションスコア

	1	遠距離からでも、肋骨、腰椎、骨盤、および全ての骨ばった隆起がはっきりと見える。体脂肪が全く認められない。明らかな筋肉量低下。
	2	肋骨は容易に触知でき、体脂肪が触知できず、肋骨が見える場合もある。腰椎の上部が見える。骨盤が骨ばって見える。腰がはっきりとくびれている。
	3	肋骨を被う余分な体脂肪はなく、肋骨に容易に触知できる。上から見たときに肋骨の後ろに腰のくびれが見え、腹部が引き締まっている。
	4	肋骨の触知は困難だが可能。かなりの脂肪に覆われている。腰椎部および尾の付け根にはっきりとして脂肪沈着がある。腰のくびれはほとんどまたは全くない。腹部ひだが存在することもある。
	5	胸部、脊椎、および尾の付け根に大量の脂肪沈着がある。腰のくびれおよび腹部ひだはない。首と四肢に脂肪沈着がある。腹部の膨張が明らかである。

出展： <https://www.axa-direct.co.jp/pet/pet-ms/detail/6010/>

**無理なダイエットは危険です。一度病院にご相談ください。**